

館林市立第四中学校 学校評価一覧表

(様式1)

自己評価 A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満

羅 針 盤			方 策	自己評価①			自己評価②					
評価対象	評価項目	具体的数値項目		生徒	保護者	教師	改善策①	生徒	保護者	教師	改善策②	
I 保護者との連携 教頭・教務	1 保護者への情報提供	①「学校や子供の様子が分かる」と答えている保護者が <u>80%以上</u>	①学校HP、ホーム&スクール、通知との併用による広報活動の充実を図る。校内の掲示物を整理し、生徒の活動を見える化していく。	79.1	95.4 A	100	引き続き、保護者や地域と連携・協働していくために、ICTを活用した情報発信をしていく。またホーム&スクール未登録保護者に登録を促していく。	81.3	90.5 A	96.6	保護者の数値が下がったことを踏まえ、生徒に対して学校からの通知を保護者に渡すよう指導すると共に、ホーム&スクール未登録保護者に登録を促していく。	
		②連絡メールやたより、学校HPなどから必要な情報が得られている保護者が <u>80%以上</u>	②学校HP、ホーム&スクール、通知との併用による広報活動の充実を図る。	91.6	95.3 A	93.4	引き続き、保護者や地域と連携・協働していくために、ICTを活用し必要な情報を発信していく。またホーム&スクール未登録保護者に登録を促していく。	91.9	96.8 A	96.7	引き続き、生徒の対しては学校からの通知を保護者に渡すよう指導すると共に、ホーム&スクール未登録保護者に登録を促していく。	
	2 保護者への対応・学校への信頼	③学校は、「相談しやすい」と感じる保護者が <u>80%以上</u>	③日常的に担任が心配な生徒の保護者と連絡を取り、保護者が気になることが生じたときに気軽に連絡できる関係を構築する。また、SC、SSW、相談員の相談体制について、生徒・保護者に定期的に周知する。	71.0	91.3 A	96.7	生徒の「相談しやすい」が低いことが気になるが、引き続き相談室についてのPR活動等をしていく。	76.2	88.7 A	96.7	生徒の「相談しやすい」が少し高まったが、定期的にストレスチェックを行うなど、意図的に相談機会を設けられるようにしていく。	
		④学校に安心して子どもを送り出すことができると感じる保護者が <u>90%以上</u>	④必要に応じて電話連絡や家庭訪問を実施する。また、保護者からの相談に対しては、寄り添い、初期対応の重要性を心掛けていく。	84.3	98.0 A	100	引き続き、保護者や生徒の声に耳を傾けていく。そこで上がった意見を職員会議等で共有し組織的に対応していく。	88.9	90.5 A	100	引き続き、保護者や生徒の声に耳を傾けていく。そこで上がった意見を職員会議等で共有し組織的に対応していく。	
II 確かな学力 学力向上Co	3 わかる授業づくり	⑤「意欲的に取り組んでいる」と答える生徒が <u>80%以上</u>	⑤授業公開などを通して、授業の工夫などを共有しながら指導力を高め、それぞれの教員が魅力ある授業作りができるようにする。	92.1 A	71.0	96.7	保護者アンケートの71%の対策としては、学校通信や学年通信等で「はばプラII」を活用した授業実践について発信していく。また、「学力だより？」などで発信していく。	92.2 A	75.7	96.7	校内研修などを通して魅力ある授業作りをしていく。	
		⑥「授業が分かる」と答える生徒が <u>80%以上</u>	⑥-1めあて、振り返りの時間を設定し、生徒が目的意識をもって授業に取り組む、何を学んだかを実感できるようにする。 ⑥-2学習の手引きを作成、活用し、どのように学習を進め、どのように評価するかを生徒や保護者に周知する。	92.1 A	68.8	93.4	保護者アンケート68.8%については、至急対策をしていきたい。学校の取り組みが伝わっていない部分もあるので発信していきたい。それと合わせて、一人一実践を通してお互いの授業を見合って授業改善を推進していきたい。	92.8 A	71.2	90.0	授業公開などで授業の様子を保護者に伝える機会をつくる。学習の手引きのデータ化、HPへの掲載などを進め、保護者に学習の状況が伝わる工夫をしていく。	
	4 基礎的な知識・技能を定着させる授業づくり	⑦「自力で課題を解決できるようになった」と答えている生徒が <u>80%以上</u>	⑦ノートなどから生徒の学習状況を見取って、その状況を評価し、支援が必要な場合は実施する。	90.2 A	77.4	90.0	各教科で学習状況を見取る工夫を行い、生徒が課題を解決できているかを見取っていく。そして生徒の状況に合わせた指導を行う。	90.4 A	82.0	86.6	生徒の学習状況を見取る工夫を今後も続け、全ての生徒が前向きに課題に取り組めるように支援をしていく。	
		5 学習習慣の定着の工夫	⑧家庭学習や読書を自主的・計画的に平均1時間以上取り組める生徒が <u>80%以上</u>	⑧家庭学習ノートの活用法について、生徒や保護者に周知するとともに、担任が点検し、家庭での学習が定着するようにする。また、家庭学習ノートで模範となる取組をしている生徒を紹介し、生徒の意欲的な取組を促す。	75.9 B	51.5	70.0	様々な手段で家庭学習ノートの活用を発信し、保護者に周知する。学習の手引きなどを活用して学習方法についての指導を行い、生徒が積極的に家庭学習に取り組めるように支援していく。	72.1 B	59.5	86.7	各教科ごとに課題などの精選を行う。また、引き続きになるが、生徒に対して家庭学習の意義を伝えたり、計画的な学習を指導したりしていく。

III 豊かな心 生徒指導 教育相談	6 いじめのない温かい人間関係	⑨「学校は悩みやいじめの解消に努めている」と答えている生徒が <u>80%以上</u>	⑨毎月の学校生活アンケートを実施し、悩みを抱える生徒には二者面談などを行っていく。また、生徒の生活の様子を細かく見ていき積極的に声かけを行っていく。気になる生徒には教育相談部と連携を図って対応していく。	91.6	91.7	100	学校生活アンケートや日常的な観察を継続して行っていく。加えて、学校行事の前後で、生徒一人一人の状況を見取することで、生徒の変化にいち早く気付き、対応できる体制をつくっていく。	88.6	85.1	100	担任・学年職員を中心に生徒の様子を見取り、個に応じた対応を実施していく。また、SC、SSW等との連携、外部との連携を積極的に図りながら、より専門性の高い対応を行っていく。
		⑩学級が居心地がよいと感じている生徒が <u>80%以上</u>	⑩学級活動では生徒が主体となる活動の場を設定し、プラスの評価をしていく。また、エンカウンターやアサーショントレーニングを積極的に取り入れ、生徒同士が理解し合える人間関係を構築できるような授業実践を行っていく。	89.9	89.7	96.7	学級活動では、体育祭や音楽祭などの学校行事と絡めたエンカウンターやアサーショントレーニングを積極的に実施していく。また、授業においても生徒が主体となって活動できる場面を多く設定し、授業が生徒相互の学びや理解の機会となるよう工夫していく。	89.5	85.6	100	引き続き、生徒が主体となって活動できる場面を多く設定し、生徒相互の学びや理解の機会となるよう工夫していく。また、担任を中心として、生徒一人一人への声かけを日常的に行い、生徒同士が認め合える雰囲気を作り、生徒の自己肯定感、自己有用感を高めていく。
	7 あいさつや時と場に応じた適切な言動をとることのできる生徒の育成	⑪進んであいさつをしたり、正しい返事ができる生徒が <u>80%以上</u> 。	⑪教師側が生徒の模範となるように、積極的に挨拶を行っていく。生徒会や生活委員による毎週の挨拶運動を継続していく。朝の健康観察では生徒一人一人呼名を行い、粘り強く返事をさせていく。	92.9	84.7	96.7	○生徒主体の挨拶運動を継続して行い、教師が見本となり、挨拶を推進していく。返事の場面では粘り強く返事をさせていく。	93.3	86.0	100	引き続き、生徒会と生活委員で毎週水曜日にあいさつ運動を行っていく。また、生徒玄関のみではなく、正門と東門にも生徒を配置し生徒があいさつをする場面を増やしていく。
IV 進路・生き方 進路指導 特別活動	8 規範意識に基づいて判断し行動できる生徒の育成	⑫学校や家庭のきまりや約束を守って生活している生徒が <u>80%以上</u>	⑫教員間で共通理解を図り、教師側のぶれない指導を軸に良いことは褒め、悪いことは徹底して悪いと指導する態度を示す。職員全体で生徒が自ら考え行動できるような指導をしていく。	96.7	82.7	96.7	○全職員で学校生活におけるきまりについて共通理解を図り、ぶれない指導を徹底し、複数の教員で組織的に対応していく。また、個に応じたきめ細かな支援もしていく。	97.0	89.2	100	生徒へは、「正しい判断と正しい行動」を軸に、今の校則やルールについて考えさせながら支援・指導をしていく。また、良い行いについては大いに称賛をしていく。
		9 進路学習や指導態勢の充実	⑬学級活動における進路学習や総合的な学習の時間などの体験活動を通して自己の生き方を考えている生徒が <u>80%以上</u>	⑬生徒が主体的に自己の生き方や進路選択を考えられるような指導や働きかけを行う。また、地域人材の活用を推進していく。	83.2	83.1	93.4	○83%の生徒が自分の進路について考えられているが、1年次から進路への意識を高められるような働きかけを充実させていく。	87.6	85.1	90.0
	10 将来の夢や希望を育むこと	⑭将来の夢や希望する進路について親子で話し合っている生徒が <u>80%以上</u>	⑭定期的に生徒、保護者と二者面談や三者面談を実施したり、全学年でキャリア教育に関する通信を発行したりしていく。定期テストの結果を親子で話し合う場面で、話し合う視点を与えていく。	74.5	82.1	80.0	○進路について考えているが、保護者と話す機会が少ないという結果になった。進路学習の授業や二者面・三者面で、親子で共に考えられるような指導していく。	77.9	81.6	90.0	11月に行った三者面談により、進路を考えるよい機会となった。今後は、夢カードなどを活用しながら、学期初めや学期末、定期テスト実施時などに親子で話し合うよう働きかけていく。

V 健康・体力 保健・保体部	11 基本的生活習慣の定着	⑮朝食をとっている生徒が <u>90%以上</u> ⑯十分な睡眠時間を確保している生徒が <u>90%以上</u>	⑮⑯保健委員会の活動を通して、生徒の実態を把握する。また、その結果をもとに、保健委員会の活動や学校保健委員会を通して、朝食や睡眠を重視し、生活リズムを整えられるよう指導していく。	92.9 A	97.7 85.4 A	80.0 83.4	保護者との面談や保健だよりなどを通して、投げかけていく。また、学校保健委員会のテーマとして、生徒が主体的に考えられるようにしていく。	90.2 A 84.6 A	95.9 79.8	70.0 83.4	生徒と保護者の意識の違いが見られる。今年度は、学校保健委員会が全生徒に対して、睡眠は8～10時間が必要であることや睡眠の重視性を周知した。引き続き、保健だよりを通して睡眠の重要性などを伝えていく。
	12 体力向上	⑰体を動かす工夫をするなど運動（部活動・体育の授業を含む）や地域のスポーツ活動などに取り組んでいる生徒が <u>80%以上</u>	⑰生徒同士で運動を楽しみながら体力向上を図れるように、協働的な学びの場面を設定したり、グループ編制を配慮したりしていく。地域スポーツを周知したり、朝トレなどの自由参加の運動機会を設定したりしていく。	86.7 A	79.8	90.0	運動することの楽しさを感じられるような学びの場を設定するとともに、目標をもって運動に取り組めるように工夫していく。朝トレの呼びかけを継続して行い、運動する機会を設定していく。	83.8 A	73.9	96.6	引き続き、学びの場の設定を行っていく。寒くなって朝トレの参加が減っているため、継続して呼びかける。2年生には、残りの部活動で後悔しないように声かけを行う。3年生には、受験期なので体調管理を行いつつストレッチなどを行うように声かけを行う。
VI 安全確保 安全	13 学校の安全対策	⑱「学校は安全である」と感じている生徒・保護者が <u>80%以上</u>	⑱毎月の安全点検を行うとともに、日々の授業や部活動等で気がついた修繕箇所などはその都度報告をすることを促し、早急に対応していくよう努める。	86.5 A	94.3 A	93.4	生徒からは教室の床のささくれが危険と感じているようなので、定期的に点検しパテ補修していきたい。また、床ふきは、細心の注意を払うよう担任からの指導をお願いしていく。	95.9 A	94.1 A	90.0	教室や他の施設の欠陥によるけが等は発生していないが、玄関の扉の上部が破損し、開閉しにくくなっているため、補修していきたい。玄関の開閉には注意するよう、担任からの指導をお願いしていく。
	14 地域の安全対策	⑲安全に通学できるよう、交通ルールに気をつけて登下校できる生徒が <u>100%</u>	⑲日々の短学活や道徳等の授業、行事等の特別活動などを通して、交通安全の意識を高められるように、生徒に継続的に啓発していく。	99.7 A	97.3	96.6	正門付近は、横断の仕方の説明や立哨指導により、少しずつ改善されてきている。他の危険箇所では交通事故が発生していることから、引き続き様々な場面で注意喚起していきたい。	99.5 A	96.8	96.7	交通事故の件数は一学期より減少した。しかし、通学・下校時の並列走行や一時不停止による交通事故が発生していることから、引き続き交通立哨や下校指導等で注意喚起していきたい。
	15 感染症対策 保健・養護	⑳学校の感染症対策が適切に行われていると感じる生徒・保護者が <u>80%以上</u>	⑳感染対策については、生徒や学校の実態や流行状況に応じて、改善を重ねていく。また、保護者通知などを通して保護者と連携・協力して感染対策をしていく。	98.9 A	98.7 A	96.7	変異株への対策として、今までの取組を検証しながら必要であれば新たな感染症対策をしていく。	98.9 A	95.9 A	96.6	文科省の感染対策も日々変わってきている。今後も国や県の方針に基づいた感染症対策を講じていく。
VII 組織運営 教頭	1 学校経営の協働参画システムの構築	㉑「組織の一員としての自覚をもって担当の校務分掌に意欲的に取り組み、職員の理解や協力が得られている」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	㉑校務分掌担当者への日常的な声かけを通して、担当の分掌への自覚を高めリーダーシップを促していく。結果だけでなく、取組を称賛することでやりがいを持てるようにしていく。			100 A	それぞれの担当者が責任感を持って連携・協働して校務分掌に取り組んでいる。今後は、業務の効率化の視点をもつよう声かけしていく。			100 A	それぞれの担当者が自分の役割を自覚して業務にあたることができている。今後は、連携・協働及び効率化を意識して業務にあたるよう助言していく。
		㉒「職員会議や学年会議等が情報交換や課題検討の場として機能している」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	㉒会議の効率化と共通理解を深めるために、事前の丁寧な準備を指示する。C4 t hの連絡掲示板を活用し、随時必要な意見交換ができるようにする。			93.4 A	主任が先生方へ必要な情報を流すことで、会議の効率化が図られてきている。今後は業務の効率化をしていく。			100 A	担当が早めに準備することができている。検討事項があれば関係する職員と協議したり、管理職に相談したりすることで、円滑な学校運営ができている。

	<p>③「教職員間の相互理解が十分なされ、信頼関係に基づいた教育活動を行っている」と答えている教職員が80%以上</p> <p>④「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に話し合える職場の人間関係ができている」と答えている教職員が80%以上</p> <p>⑤「教室内外の環境整備に向けて努力している」と答えている教職員が80%以上</p> <p>⑥「この職場は、教職員の服務規律確保への自覚が高い」と答えている教職員が80%以上</p>	<p>⑦職員が明るく元気に仕事ができるように、運営委員に關係する職員への目配り、気配り、心配りを依頼する。</p> <p>④人事評価の当初面談において、「公私ともに伝えておきたいことがありますか」などと投げかけ、気軽に相談できる体制を構築する。</p> <p>⑤よりよい環境が生徒の健全育成、職員の働きやすい職場づくりに繋がるといふ理念に基づき、教職員に教室環境（きれいな教室・安全な教室）の整備・充実を指示するとともに、管理職自ら率先して動いていく。</p> <p>⑥-1 毎月末に「服務規律チェックリスト10」で自己評価させ、服務を守る意識を高く保てるようにする。</p> <p>⑥-2 服務に係わる新聞記事があった場合、朝の打合せで情報提供していく。</p>	<p>93.3 A</p> <p>90.0 A</p> <p>90.0 A</p> <p>93.3 A</p> <p>96.7 A</p> <p>73.4 B</p> <p>86.7 A</p> <p>96.7 A</p> <p>86.7 A</p>	<p>職員室で、校務について職員同士で積極的に意見交換できている。校務の効率化に向け時間を有効に使うよう声かけしていきたい。</p> <p>学年主任や中核となる教員により、風通しのよい職場環境ができていると考えられる。2学期はストレスもたまりやすいので、これまで以上に風通しのよい職場環境作りに努めていきたい。</p> <p>他者からの評価を踏まえると改善された部分も多いが、不十分な部分もある。昨年度実行した、専門委員会主導の校内美化活動を取り入れていきたい。また、長期休業中にトイレ清掃だけでなく校舎内の清掃も検討していく。</p> <p>職員の言動から服務規律確保の意識の高まりを感じる。引き続き、ストレスを抱えて、公務外での非遵行為などが発生しないよう風通しのよい職場づくりを進めていく。</p> <p>各学年の研修部を中心に、学年会などにおいて、「めあて」と「振り返り」の時間を大切に授業作りについて啓発していく。また、全体会や授業検討会などにおいて、生徒主体の授業作りについて考える機会を確保する。</p> <p>授業公開計画を作成し、同じ教科班による積極的公開授業を推進することで、教科部会において活発な意見交換が行えるようにしていく。</p> <p>フォルダの統一、C4thの掲示板・個人連絡機能の活用を継続していく。クラウド活用が増加していくため、学習に関するデータ等の権限設定を確認する習慣を付ける。</p> <p>個人情報を保管する場所をあらためて確認し、保管の徹底を図る。また、紙を処分する際、個人情報が無を確保させ、シュレッター利用を声かけしていく。</p> <p>養護教諭、保健主事を中心に、持続可能な感染症対策を行っている。2学期初めは、強化週間として、換気の徹底、マスク着用などの発生を防いでいく。</p>	<p>100 A</p> <p>100 A</p> <p>93.3 A</p> <p>96.7 A</p> <p>100 A</p> <p>80.0 A</p> <p>86.7 A</p> <p>90.0 A</p> <p>96.7 A</p>	<p>職員間でお互いのよさを認め合いながら業務にあたることができている。引き続き、組織の質を高めていきたい。</p> <p>学年主任やミドルリーダー等がリーダーシップを発揮し、温かい雰囲気を作り、誰でも自分の考えを言いやすい環境を作ることができる。引き続き組織の質を高めていきたい。</p> <p>改修工事によりきれいになった環境を維持しようと自主的に動く教員が多い。引き続き、職員と生徒がそれぞれ努力する点などを話し合いながらきれいな環境の維持に努めていく。</p> <p>管理職からだけでなく、職員同士で服務規律を守るための声かけができている。引き続き、職員が1人で悩みを抱えることがないように、学年主任を中心となって見守りや必要な声かけをしていく。</p> <p>今年度の研修について振り返りを行い、成果と課題を明らかにした。授業づくりのポイントを整理し、学校全体で学力向上、主体的対話的で深い学びにつなげていく。</p> <p>授業公開計画を作成・掲示したことでこれまで以上に授業を見合うことができた。今後は、ICT活用などの好事例を共有する機会を設定し全教員の指導力向上につなげていきたい。</p> <p>共有フォルダの活用とともに、必要な情報をすぐに取り出せるよう、担当に整理を促していく。</p> <p>引き続き、個人情報の管理について注意喚起をする。個人情報についてはシュレッダーで処分するよう指導していく。</p> <p>養護教諭、保健主事がリーダーシップをとり、必要なタイミングで必要な感染症対策を行った。今後も、家庭と連携した健康観察を行っていく。</p>
2 学習指導・生徒指導の推進	<p>⑦生徒一人ひとりを大切に授業づくりや生徒との信頼関係づくりに努めている教職員が100%</p> <p>⑧「積極的に授業を見合い、互いに学び合うことによって自分の授業づくりに生かしていると答えている教職員が80%以上</p>	<p>⑦単位時間毎にねらいに即した明確な「めあて」を生徒全員に共有させるとともに、授業後半には「振り返り」の時間を設ける。また、「めあて」の設定においては、生徒が主体となるように工夫する。</p> <p>⑧授業検討部会内での授業公開を積極的に行い、指導に生かす評価を基に授業改善を図ることができるよう活発な意見交換を行っていく。</p>	<p>96.7 A</p> <p>73.4 B</p>	<p>100 A</p> <p>80.0 A</p>	<p>今年度の研修について振り返りを行い、成果と課題を明らかにした。授業づくりのポイントを整理し、学校全体で学力向上、主体的対話的で深い学びにつなげていく。</p> <p>授業公開計画を作成・掲示したことでこれまで以上に授業を見合うことができた。今後は、ICT活用などの好事例を共有する機会を設定し全教員の指導力向上につなげていきたい。</p>	
3 公文書や個人情報等の情報の適切な管理	<p>⑨「各種文書・データ等は、校務分掌や担当ごとに適切に管理されている」と答えている教職員の80%以上</p> <p>⑩「個人情報が確実に保護され、管理が徹底されている」と答えている教職員が80%以上</p>	<p>⑨フォルダを統一の形式で分掌/学年分けしたり、C4thの掲示板・個人連絡機能を活用したりして、必要な担当に必要な情報を情報交換することができるようにする。</p> <p>⑩緊急連絡先・成績等の個人情報の所在をはっきりし、施錠を確実にを行う。また、毎月の服務規律確認に併せて個人情報に関する点検を行う。</p>	<p>86.7 A</p> <p>96.7 A</p>	<p>86.7 A</p> <p>90.0 A</p>	<p>共有フォルダの活用とともに、必要な情報をすぐに取り出せるよう、担当に整理を促していく。</p> <p>引き続き、個人情報の管理について注意喚起をする。個人情報についてはシュレッダーで処分するよう指導していく。</p>	
4 感染症対策	<p>⑪「この職場は、教職員の感染症対策への自覚が高い」と答える教職員が90%以上</p>	<p>⑪-1 国や県、市の新型コロナウイルスの感染対策を踏まえ、同一歩調で感染対策をしていく。</p> <p>⑪-2 生徒指導部会（コロナ対策推進部）や職員会議で感染対策について、定期的に点検評価し見直しを図る。</p>	<p>86.7 A</p>	<p>96.7 A</p>	<p>養護教諭、保健主事がリーダーシップをとり、必要なタイミングで必要な感染症対策を行った。今後も、家庭と連携した健康観察を行っていく。</p>	